



もりた ゆきたか
森田 幸孝／著

インターネットが壊した「こころ」と「言葉」

新書 260頁 定価¥838 (税別)
発行所：幻冬舎ルネッサンス新書
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目9番7号
TEL 03-5411-6710
ISBN978-4-7790-6054-0 2011年12月15日発行

[評者] 編集事務所なずな みなくち たもつ 水口 保

エネルギーや温暖化を含む地球環境問題、原発、暴走としか言いようのない政治状況——それら顕在化している問題以上に、根源的な恐ろしさを秘めているのがネット社会における「こころ」の崩壊ではないだろうか。

精神科医として臨床経験もある著者は、不安や極度のストレスによるうつ病、児童虐待、いじめなどの社会問題の原因に、インターネットやケータイの普及に伴うコミュニケーション手法の大きな変化があるとみる。地域社会はもとより、血縁による人間関係すら希薄になる一方で、人々（多くは若い世代）は、一見ゆるやかで居心地のよいつながりを求めて、ネットに集まる。しかし、そこでは「好き」か「嫌

い」という二者択一の答えをできるだけ端的に表現することが求められ、論理の構築や複雑な感情の綾は忌避される。さらに12億人以上が利用していると言われるFacebookでは、意見を表明するのに言葉はいらない。「いいね」をクリックするだけでいいのだから。「巨大なネットワーク」の中では異説は認められず、少数になること、疎外されることをおそれ、商業主義ネット帝国の従順な民が増えていく。かくして言葉はやせ細り、心は壊れていく。この流れを止めることはできないのかもしれないが、少なくとも、この状況に気づくために、本書を読んでおく価値はある。残念ながらネット帝国国民の多くは本を読まないが。



西垣 通／著

スローネットーIT社会の新たなかたち

四六 224頁 定価¥1,700 (税別)
発行所：株式会社春秋社
〒101-0021 東京都千代田区外神田二丁目18番6号
TEL 03-3255-9611
ISBN978-4-393-33306-8 2010年発行

[評者] 福岡大学大学院工学研究科 たなか あやこ 田中 綾子

本書のタイトルから、「スローフード」を連想する方が多いであろう。著者は「スローITは、身近な生活を深化させ、そこに成熟した文化の香りを取りもどすためのツールであり、ITもローカルなコミュニケーションの質を向上させるために活用されるべきである」と述べているように、ローカルな文化やつながりを大事にする点において共通している。本書では、スローネット・ライフを支える情報技術として「スローIT」を提唱し、その概念やその必要性について、現在われわれの周りを占有しているIT（著者は「スローIT」）に対比

して「ファストIT」と呼んでいる。）との比較から説明し、IT技術者から社会学や哲学をベースとした情報学やメディア論を研究している筆者ならではの視点で、ITの開発経緯が記されている。本書を通して、IT開発の思想や理念が理解できたとともに、地域文化の香りを楽しんだわれわれ世代が「ファストIT」によって希薄になった人間同士のつながりを埋めていく責任があることを実感した。ITに縁遠い皆様にぜひ読んでいただきたい本である。



藤川 大祐／著

ケータイ世界の子どもたち

新書 217頁 定価¥720 (税別)

発行所：講談社

〒112-8001 東京都文京区音羽 2-12-21

TEL 03-3945-1111

ISBN978-4062879446 2008年発行

〔評者〕 本誌編集部 ^{かじ みゆき} 鍛冶 美行

「ネットいじめ」「学校裏サイト」「同調圧力」など、子どもの携帯電話をめぐる事件が社会問題として大きくなってきた2008年に本書は発行された。少し前のものになるが、NHK教育テレビで「ケータイ社会の落とし穴」「ブログ社会の落とし穴」の制作にもかかわっていた著者が、子どもはケータイをどのように使用しているか、大人から見えにくかった状況を具体的な事例を介して解き明かし、問題を浮き彫りにしたうえで、これらの問題にどのようにして大人たちが取り組むべきかの提案をしている。

子どもたちが危険なサイトにいかないように、フィルタリングに入っていれば安心だとか、子ど

もにケータイを持たせるべきではないといった安直な解決策ではなく、まずは、子どもがどういった状況にあるのか、「便利さ」や「煩わしさ」を避けた結果、子どもたちの生活にどのような変化をもたらしたのか、その原因を分析したうえで、業界ではフィルタリングを改善し、学校で情報リテラシーを教え、地域社会で子供たちの居場所を与え、家庭では親と話し合っ使用に際する約束事を決める。こういった協働作業が「ケータイ」にまつわる問題を解決することにつながるとしている。

子どもたちを大切に社会を望まれる方々に、是非とも読んでいただきたい。



遠藤 功・山本 孝昭／著

「IT断食」のすすめ

新書 240頁 定価¥850 (税別)

発行所：株式会社日本経済新聞出版社

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手ビル8階

TEL 03-3270-0251

ISBN978-4-532-26140-5 2011年発行

〔評者〕 仙台市経済局産業政策部 ^{やまだ けんいち} 山田 健一

現在、私達は、日常＝ビジネスやプライベートのさまざまな場面で、パソコンやスマートフォンを活用していますが、本書は、そんな私たちに潜む「過度なIT依存症＝IT中毒」について取り上げ、多くの人たちが「IT中毒」状態にあることを問題提起している1冊です。

そして、IT業界に20年以上身を置く、いわゆる企業ITのプロである著者による問題提起と、さらに、ITを大いに活用する企業の幹部クラスの方々の豊富なインタビューによって、内容は実に興味深く面白いものとなっています。

本書によると、「IT中毒」は2006年に兆候が表れ、

2010年には危機的状況となり、単純にいうと、ITによって得られるメリットとデメリットが逆転はじめていたとのこと。その具体的な内容は、評者がこれまでの経験や現在の状況と共感できることが多く、残念ながら評者自身が「IT中毒」となりつつあることを自覚しました。本書を読むみなさんも同じように感じるだろうと思います。

本書はビジネスの場を想定した内容となっていますが、パソコンをスマートフォンに、ビジネスメールをSNSに置き換えれば、プライベートにも共通する問題提起です。「ITとの付き合い方」を考える一助として、多くの皆さんに読んでほしい1冊です。